

RAS 遺伝子(KRAS/NRAS 遺伝子)野生型で化学療法未治療の 切除不能進行再発大腸癌患者に対する mFOLFOX6+ベバシズマ ブ併用療法と mFOLFOX6+パニツムマブ併用療法の有効性及び 安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験における治療感受性、 予後予測因子の探索的研究

近年では、病気に関係する遺伝子や薬の効き目に関係する遺伝子を見つけ、患者さん“個々”の遺伝子の違いに基づいた新しい治療法の開発が進みつつあります。

例えば、がん患者さんの中でも、同じ抗がん剤を投与しても有効である患者さんと、そうでない患者さんがいます。あるいは同じ抗がん剤でも副作用の強い患者さんと、そうでない患者さんがいます。当然のことながら患者さんにとって副作用が少なく、かつ有効な薬剤を選んで治療を行うことが望ましく、このような治療を「個別化治療」と呼びます。従来、治療の個別化は困難でしたが、医学の進歩に伴いがんに特異的な遺伝子や蛋白質をくわしく調べることによって可能となりつつあります。これらの物質をバイオマーカーと呼んでいます。このような「個別化治療」が大腸がんにおいても既に始まっています。「個別化治療」のための研究の多くは、研究で得られたデータと患者さんの診療情報とが結び付けられて初めて有意義な研究となります。

KRAS 遺伝子やNRAS 遺伝子に変異がみられない場合、パニツムマブのような抗EGFR(上皮成長因子受容体)抗体薬が効きやすいといわれています。このような知見はバイオマーカーに関する研究から得られたものです。これ以外の項目についてもより広範なバイオマーカーに関して検討を行うことにより、治療効果をあらかじめ予測できる可能性があります。

今回のバイオマーカー研究の成果として、将来大腸がんにかかる患者さんに、より有効な治療法を提供できるようになるのではないかと考えています。

本研究は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。